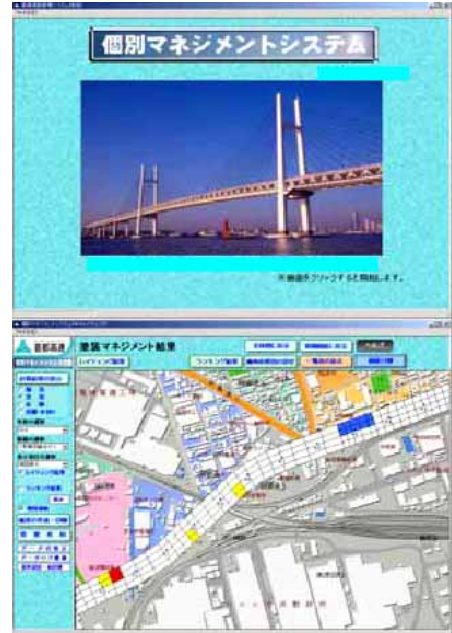
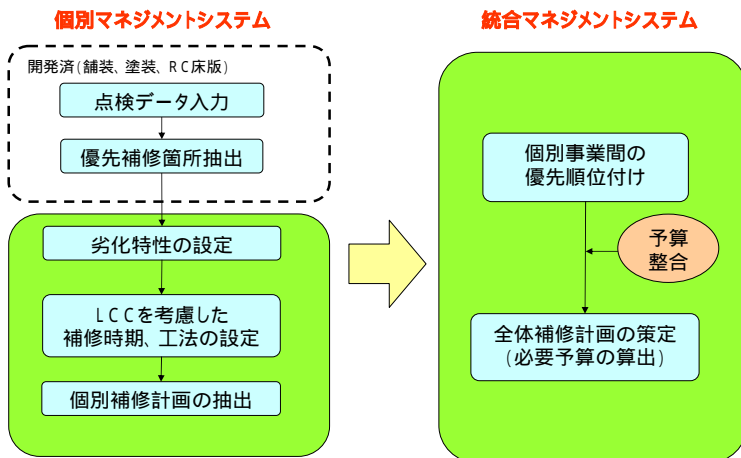


### (3) 安心・安全・快適性の確保、向上

#### 適切な管理水準を確保した合理的、効率的な道路維持管理の推進 - アセットマネジメントの導入 -

老齢化する道路資産の維持管理を行うには、適切な目標管理水準の設定、合理的かつ効率的な道路維持管理計画が必要です。そのため、**アセットマネジメント**の概念を適用した道路維持管理計画を立案するシステムを構築すべく、引き続き検討を進めています。

#### 首都高速アセットマネジメントシステムの体系

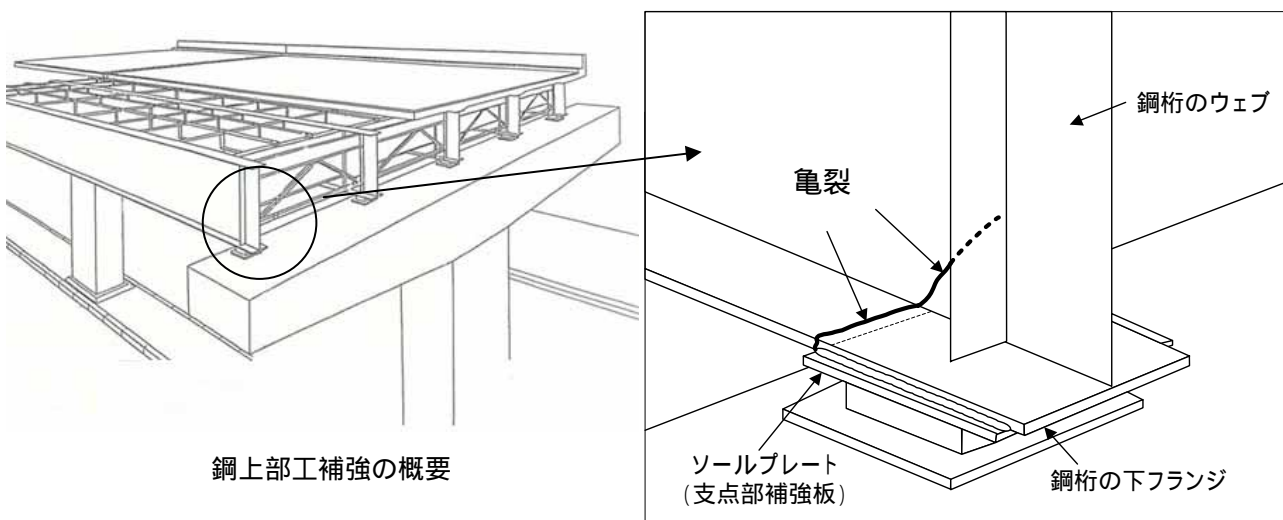


(参考) 個別マネジメントシステムの起動画面

#### 地震防災対策、道路構造物安全対策等の推進

地震災害時の安全を強化するため、横浜ベイブリッジなど長大橋梁等の耐震補強、トンネルの耐震補強を継続して実施します。

また、鋼製橋脚隅角部等の鋼構造物の疲労耐久性向上対策や、2005年度に着手した鋼上部工補強（鋼橋重大疲労損傷対策）などを継続して実施します。



鋼上部工補強の概要

ソールプレート（支点部補強板）溶接部から進展した鋼桁の疲労亀裂の例

## 交通安全対策等の推進・走行快適性の向上

交通事故分析に基づき、事故多発地点に対して交通安全対策を実施するほか、お客様の安全・快適な走行を確保するために、雨天時の事故防止に効果のある高機能舗装への更新を図ります。さらに、PAや料金所などで交通事故防止のための的確な情報提供を行うとともに、ホームページに掲載している交通安全情報の拡充を図り、交通安全フェアなどの啓発活動も引き続き実施していきます。

また、走行快適性の向上と、走行時の騒音・振動の低減のため、橋と橋の継ぎ目（「ジョイント」という。）を少なくするノージョイント化工事を進めます。2006年度は損傷の著しい路線から順次着手していく予定です。

### ノージョイント化の概要



工事前



改良後

## (4)ITS等の推進

### スマートウェイの更なる推進

2004年8月、スマートウェイ推進会議（国土交通省、委員長：豊田章一郎 経団連名誉会長）で「ITSセカンドステージへ」が提言され、ITSを支えるスマートウェイの進展が求められています。

首都高速道路においても、早くから通信技術を活用した交通管制システムの構築、それによる情報提供、VICS・ETCの整備等、ITSにおける「スマートウェイ」の実現に向けて取り組んできましたが、更なる推進を図るため「SHUTOKOスマートウェイ検討会」（2005年3月）を設置し、持続発展的なスマートウェイを目指し取り組みを行なっています。

また、国土交通省が行なう「参宮橋AHS社会実験」等に継続して協力していきます。



2005年3月～5月の3ヶ月間で一旦サービスを休止しておりましたが、このシステムの効果が確認されたことを踏まえ、9月21日より約1年間の予定でサービスを再開いたしました。

### AHS社会実験の概要

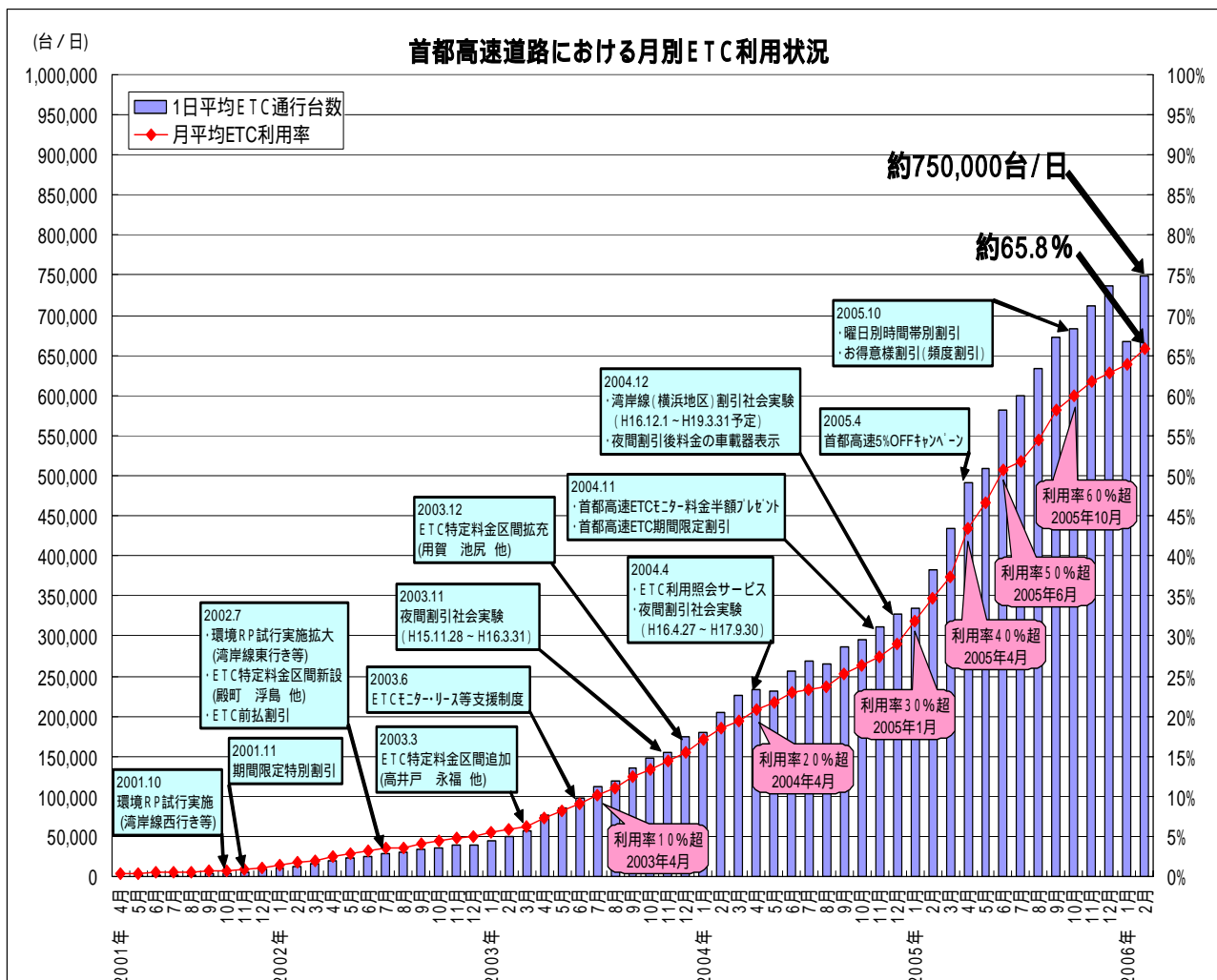
(2005年3月1日より社会実験開始)

実施主体：国土交通省 国土技術政策総合研究所 / 首都高速道路株式会社

## E T C 普及促進の取り組み

E T Cの普及促進のため、専用レーン設置料金所の拡大、各種料金施策の実施、ワンストップサービスの実施等の取り組みを行った結果、E T C利用率は順調に増加し、首都高速におけるE T C利用率は6割を超えました。また、E T C利用の増加により、本線料金所の渋滞がほぼ解消しています。

引き続き、2007年春の目標であるE T C利用率90%に向けて普及促進策を展開していきます。



### E T C 普及促進のための取り組み(2006年3月31日現在で実施中の施策)

#### E T C 利用促進のための環境整備

- ・ E T C 専用レーン設置料金所数の拡大(133箇所)
- ・ E T C カード未挿入お知らせアンテナ設置(40箇所) [2005年2月~]
- ・ 首都高E T Cコールセンター設置 [2005年10月1日~]

#### 弾力的な料金施策

- ・ 曜日別時間帯別割引 [2005年10月~]
- ・ お得意様割引(頻度割引) [2005年10月~]
- ・ E T C 特定料金区間 [2002年7月~]
- ・ 環境ロードプライシング [2001年10月~]
- ・ 首都高速湾岸線(横浜地区)割引社会実験 [2004年12月~]

#### E T C 車載器支援

- ・ E T C ワンストップサービス [2004年11月~]
- ・ 出張取付サービス [2006年2月~]